

北海道農業共済組合

1 北海道の紹介

日本の総面積の2割以上を占め、世界の島の中で第21位の大きさを誇る北海道は、179の市町村からなり、九州と四国を合わせた面積よりも上回ります。四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山岳や広大な湿原などの美しい景観の天然湖沼などで形成されています。日本では最北端に位置しますが、世界から見るとアメリカ、ヨーロッパの主要都市とほぼ同位置にあります。

気候は、道北・道東の内陸部で冬は-30℃を下回ることもあり、日本海側にあつては、日本でも有数の豪雪地帯ですが、一方で太平洋沿岸部は親潮の影響を受けるため、夏は涼しく、冬は小雪傾向です。また、北海道は夏から秋にかけての梅雨や台風の影響をあまり受けません。

世界自然遺産にも登録されている知床国立公園をはじめとした6つの国立公園を有し、北海道中央部の天塩山地、北見山地、石狩山地、日高山脈は「北海道の屋根」とも呼ばれています。この豊かな自然によって、タンチョウやエゾヒグマ、キタキツネなどの動物、ハマナスやトドマツ、エゾツツジなどの植物を見ることができます。また、海鮮やジンギスカン、スープカレーなどのグルメも北海道が育む大自然の賜物です。

令和5年からは、コロナ禍によって下火



タンチョウ



クラーク像



知床



ジンギスカン



海鮮丼



美瑛の丘



函館



スープカレー

になっていた観光業が急激に回復傾向で、インバウンドや国内旅行客の来道も増加し、世界トップクラスのパウダースノーや美しい景観を求めて多くの観光客が北海道を訪れています。

2 北海道の農業

北海道の農業は、全国の4分の1を占める広大な耕作地や豊かな水資源、冷涼な気候などの恵まれた条件を生かし、稲作、畑作、酪農などの土地利用型農業を中心に展開しています。令和3年度の食料自給率(カロリーベース)は223%で、日本最大の食糧

生産地となっています。

農業算出額は約1兆3千億円で、全国の約15%を占め、小麦、ばれいしょ、たまねぎ、てん菜、生乳、軽種馬など多くの品目が全国1位となっています。現在では、北海道米もブランドが確立し「ゆめぴりか」「なな



ばれいしょ

つぼし」「ふっくりんこ」「おぼろづき」などの良質米を生産しています。

農業経営体数は約3万2千経営体で、経営耕地面積10ha以上の農業経営体が7割を超えるなど、大規模農業が盛んに行われ



ビート

ています。また、地域によって気象や地理的条件が異なるため、稲作地帯、酪農地帯、畑作地帯など、地域ごとに特色のある農業を展開しています。

3 北海道農業共済組合（NOSAI北海道）の概要

【所在地】北海道札幌市中央区北4条西1丁目1北農ビル15階

【電話】011-271-7212（代表）

【役員】理事31人 監事6人

【支所】29

【診療所】63（分室・出張所を除く）

【職員】1,338人（令和6年4月1日現在）

うち事務職員484人

獣医師（動物看護師を含む）764人

人工授精師90人



4 北海道農業共済組合の活動

当組合は令和4年4月に全道5組合が合併、令和4年5月に北海道農業共済組合連合会の解散と財産等の承継により特定組合が発足しました。合併当時の職員数は1,500名を超え、全国で最大規模の農業共済組合となりました。

北海道のみならず、全国の農業を取り巻く環境は、担い手不足や輸入資材の高騰による経費の増高など、農畜産物の販売高は減少しています。また、近年は予期せぬ大規模な自然災害が各地で頻発しており、農業者の経営努力だけでは避けることのできないリスクへのセーフティネットが一層求

められています。

このような状況のなか「農業共済制度」は昭和22年の発足以来、国の重要な災害対策の柱としてその機能を遺憾なく発揮してきました。平成30年には、あらゆるリスクから農業販売収入の減少を補てんする「収入保険制度」を導入し、2つのセーフティネットで農業者の経営安定に取り組んでいます。

NOSAI北海道は、無保険者ゼロを目指して「すべての農業者に安心を届ける」を使命に、備えの種を播き続けて北海道農業とともに歩んでまいります。